

環境報告書プラザに関するアンケート調査2011

結果報告書

2011年10月

経済産業省 産業技術環境局
環境政策課 環境調和産業推進室

目次

1. 環境報告書プラザに関するアンケート調査の概要	1
2. アンケート調査結果	3
(1) 自社の「環境報告書 (CSR 報告書、サステナビリティレポート等を含む)」に関して	3
(2) ウェブサイト「環境報告書プラザ」の利用状況に関して	5
(3) 「環境報告書プラザ」ウェブサイトの改善に関して	7
(4) 環境／CSR コミュニケーションに関して	9
(5) 第三者評価に関して	12
(6) 節電についての取り組みに関して	14
参考1. 2009年度アンケート調査結果との比較	15
参考2. 環境報告書プラザに関するアンケート調査票	16

1. 環境報告書プラザに関するアンケート調査の概要

■目的：ウェブサイト「環境報告書プラザ」に環境報告書等を掲載している企業の環境報告書プラザの利用状況、環境報告書プラザへの改善要望、環境報告書等作成者の意識、夏期の節電への取り組み状況等の把握

■調査期間：2011年7月12日～2011年8月31日

■調査対象：環境報告書等掲載企業（897社にアンケート用紙を郵送）

■調査方法：郵送による依頼。回答は郵送またはウェブフォームのいずれか選択可

■調査項目：

- ①環境報告書は、誰を対象に作成しているものか
- ②環境報告書作成にあたって、苦労している点
- ③環境報告書作成にあたり、有効だと思われるツール
- ④自社環境報告書の掲載の認知状況
- ⑤「環境報告書プラザ」の利用頻度
- ⑥「環境報告書プラザ」の利用目的
- ⑦「環境報告書プラザ」の利用頻度の高い項目
- ⑧一般層（消費者、会社員、学生等）向けの新規コーナーに関して
- ⑨専門層（環境担当の会社員、環境NPO、研究者、環境調査機関等）向けの新規コーナーに関して
- ⑩環境報告書／CSR報告書のメディア（媒体）に関して
- ⑪環境／CSRコミュニケーションにおいて重視する事項
- ⑫報告書作成時に参考になっているガイドライン
- ⑬「環境報告書プラザ」のウェブサイトのタイトルに関して
- ⑭次世代に対する環境／CSRコミュニケーションに関して
- ⑮第三者評価等を受けているかどうか
- ⑯第三者意見／評価をウェブサイトで公表することについて
- ⑰夏期の節電対策に関して

■回収状況

郵送方式による回収数は168社、ウェブアンケートによる回収数は243社となり、回収率は約46%となった。（図表1）

図表1 回収数の内訳

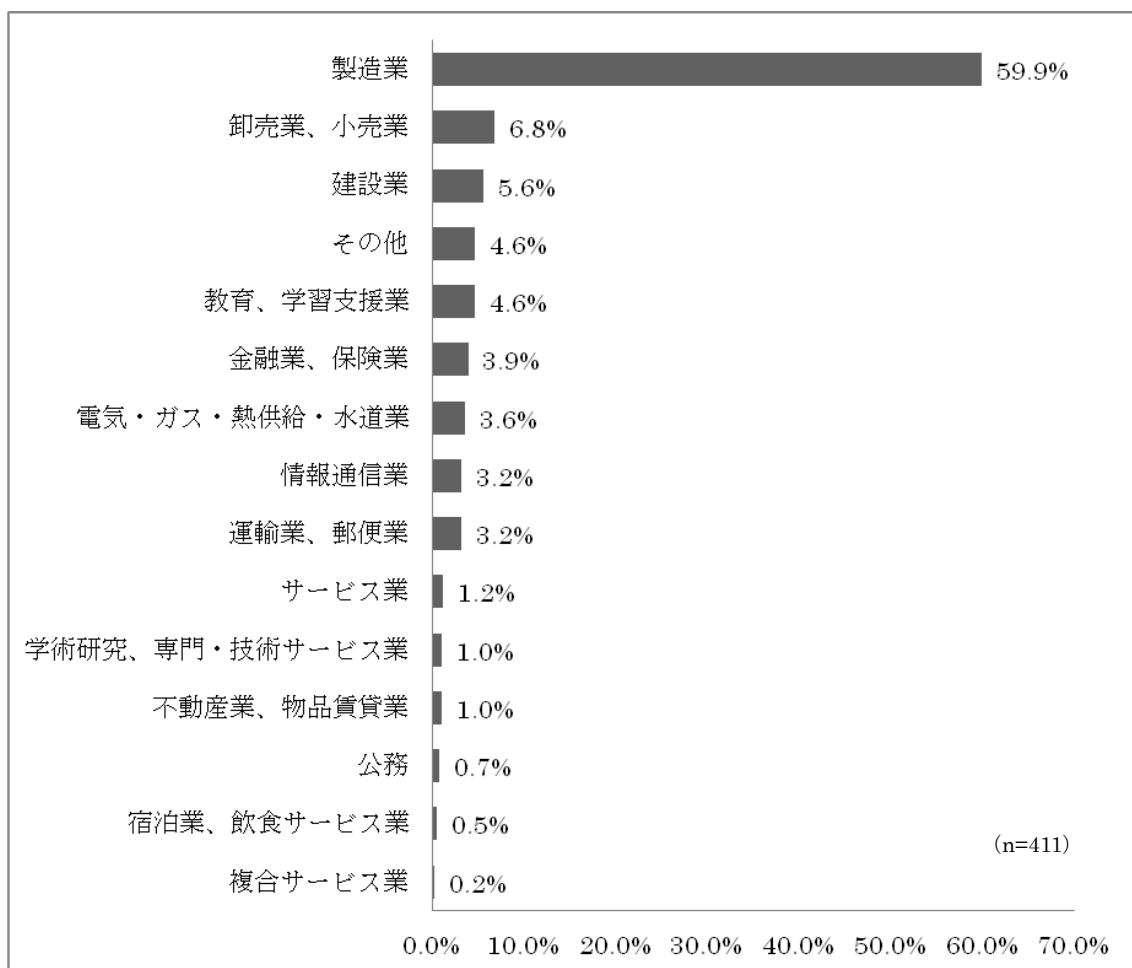
区分	回収数
郵送方式	168
ウェブアンケート	243
合計	411

■回答企業の業種分布：

回答企業の業種分布は、日本標準産業分類の大分類ベースでは、「製造業」が59.9%と大半¹を占め、次に「卸売業、小売業」が6.8%、「建設業」が5.6%などとなっている。（図表2）

「製造業」について少し詳しく（中分類ベースにて）見てみると、「化学工業」が11.2%で最も多く、「その他の製造業」が9.2%、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が5.8%で続いている。

図表2 回答企業の業種分布（大分類）



¹環境報告書プラザへの製造事業者の登録割合 58%

2. アンケート調査結果

(1) 自社の「環境報告書 (CSR 報告書、サステナビリティレポート等を含む)」に関して

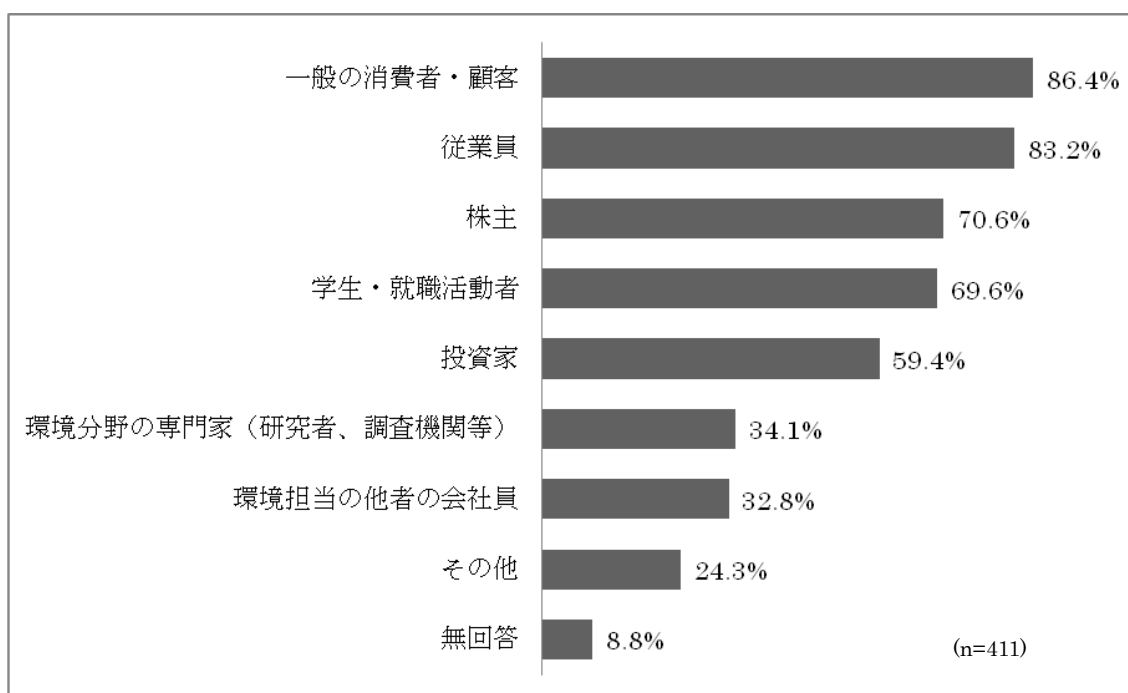
①環境報告書は、誰を対象に作成しているものか〔問1〕

「一般の消費者・顧客」が 86.4%と最も多く、「従業員」が 83.2%、「株主」が 70.6%と続いている。(図表 3)

なお、「その他 (自由記入)」(24.3%) の内容は、主に次のとおりである。

- ・取引先
- ・地域の住民
- ・行政、官公庁
- ・グループ企業や代理店などのビジネスパートナー
- ・マスコミ
- ・すべてのステークホルダー

図表 3 環境報告書は、誰を対象に作成しているものか (複数回答)



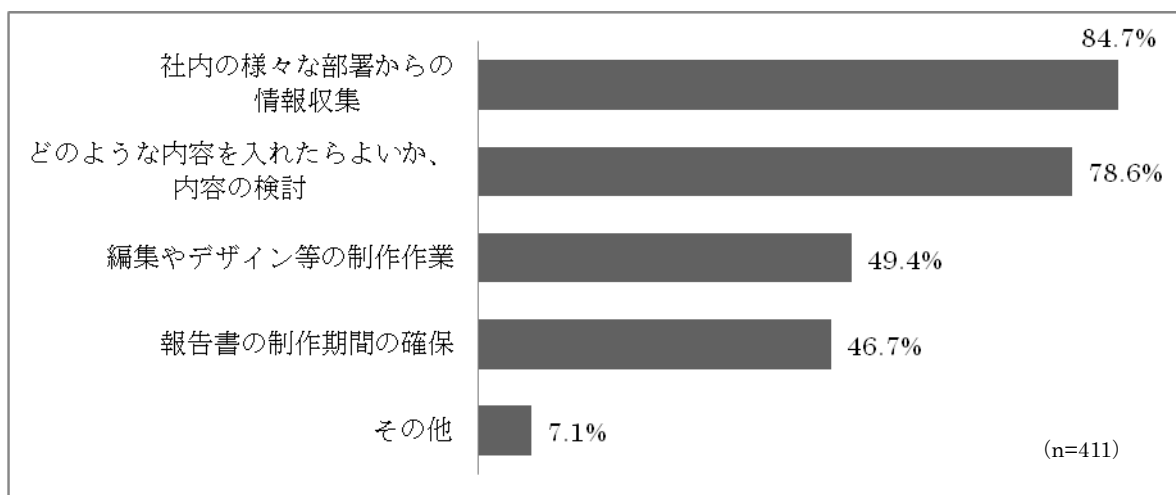
②環境報告書作成にあたって、苦勞している点〔問2〕

「社内の様々な部署からの情報収集」が 84.7%と最も多く、「どのような内容を入れたらよいか、内容の検討」が 78.6%、「編集やデザイン等の制作作業」が 49.4%と続いている。(図表 4)

なお、「その他（自由記入）」（7.1%）の内容は、主に次のとおりである。

- ・ 正確なデータの収集、解析、確認
- ・ 海外の工場の状況、数値の把握
- ・ 限られたスペースに掲載する記事の取舍選択
- ・ 読者ターゲットの絞り込みが難しい
- ・ 当社の環境取り組みや実績を適切に理解していただけるよう、わかりやすく記載すること
- ・ 社内の編集体制が十分に整っていないこと

図表 4 環境報告書作成にあたって、苦労している点（複数回答）



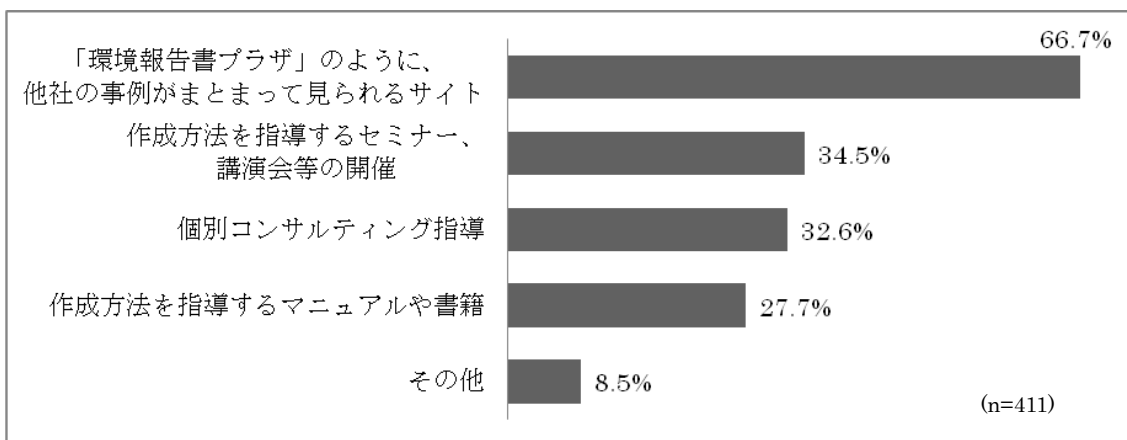
③環境報告書作成にあたり、有効だと思われるツール【問3】

『環境報告書プラザ』のように、他社の事例がまとまって見られるサイト」が 66.7%と最も多く、「作成方法を指導するセミナー、講演会等の開催」が 34.5%、「個別コンサルティング指導」が 32.6%と続いている。（図表 5）

なお、「その他（自由記入）」（8.5%）の内容は、主に次のとおりである。

- ・ 他社との交流、各企業の制作担当者間の意見交換会
- ・ 事業者が環境・社会・経済的な発展に向けた方針策定、計画立案、具体的取組案を促進するための、GRI ガイドラインのような国際的ガイドライン
- ・ CSR 報告書がどのような傾向に変化しているか、参考とすべきガイドラインに変化はないか等の情報提供
- ・ 行政による書式や開示基準等の統一化

図表5 環境報告書作成にあたり、有効だと思われるツール（複数回答）

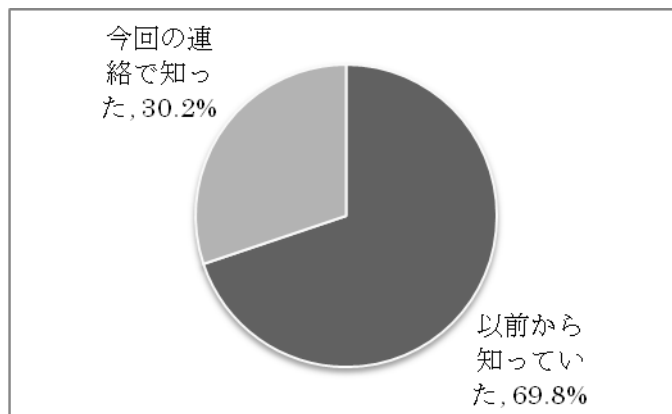


(2) ウェブサイト「環境報告書プラザ」の利用状況に関して

④ 自社環境報告書の掲載の認知状況〔問4〕

自社環境報告書が、環境報告書プラザに掲載されていることを「以前から知っていた」のは69.8%、「今回の連絡で知った」が30.2%となり、認知度は約7割の結果となり、ある程度認知されていることがうかがえる。（図表6及び参考1参照）

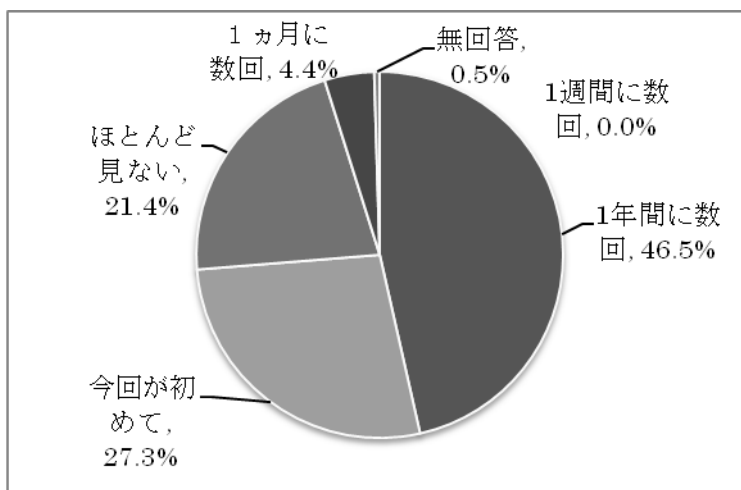
図表6 自社環境報告書の掲載の認知状況（n=411）



⑤ 「環境報告書プラザ」の利用頻度〔問5〕

「1年間に数回」が46.5%、「今回が初めて」が27.3%、「ほとんど見ない」21.4%となっている。2009年度のアンケートと比較すると、利用頻度は上がってきている。(図表7及び参考1参照)

図表7 「環境報告書プラザ」の利用頻度 (n=411)



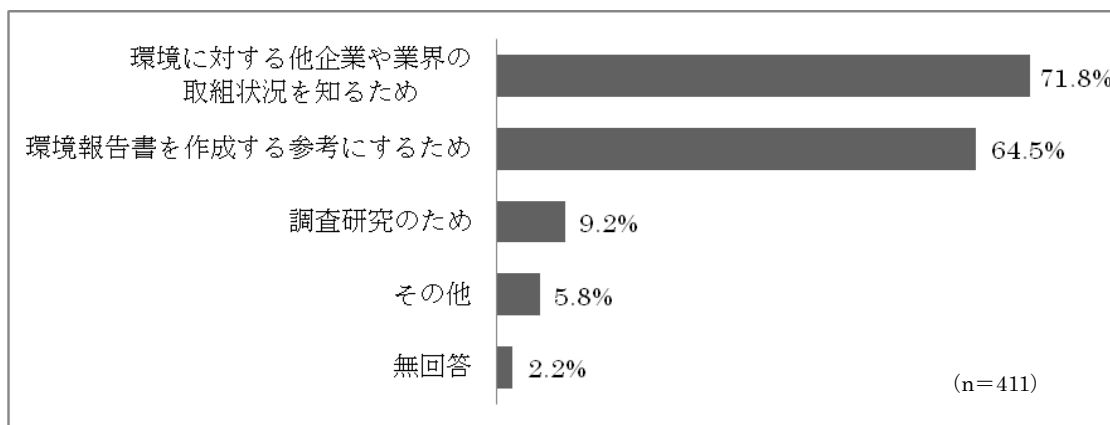
⑥ 「環境報告書プラザ」の利用目的〔問6〕

「環境に対する他企業や業界の取組状況を知るため」が71.8%と最も多く、「環境報告書を作成する参考にするため」が64.5%、「調査研究のため」が9.2%と続いている。(図表8及び参考1参照)

なお、「その他（自由記入）」(5.8%)の内容は、主に次のとおりである。

- ・ CSR全般の他社取組や報告書作成を参考にするため
- ・ 報告書のデザインを参考にするため

図表8 「環境報告書プラザ」の利用目的 (複数回答)



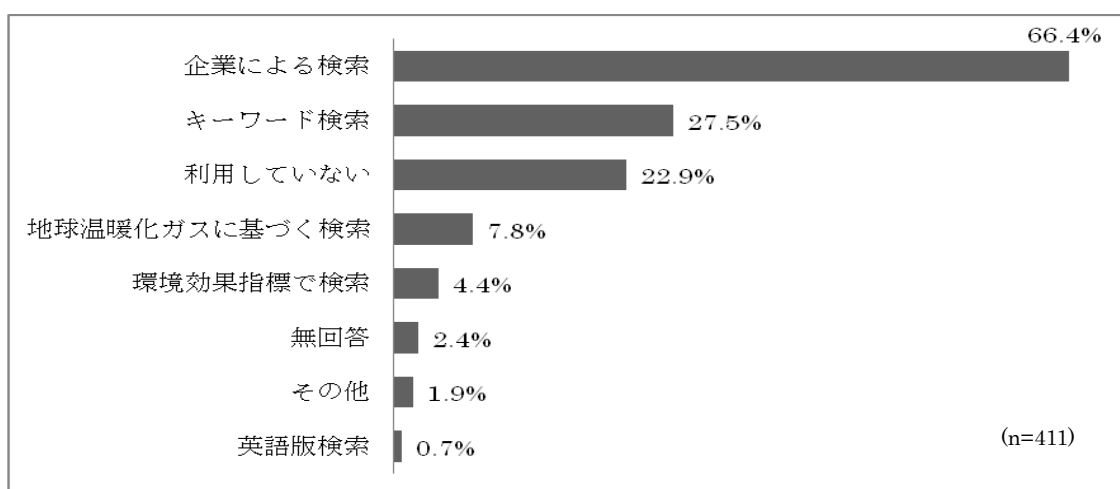
⑦「環境報告書プラザ」の利用頻度の高い項目〔問7〕

環境報告書プラザの検索機能等の中で、利用頻度の高い項目は、「企業による検索」が66.4%と最も多く、「キーワード検索」が27.5%、「利用していない」22.9%と続く。(図表9)

なお、「その他(自由記入)」(1.9%)の内容は、主に次のとおりである。

- ・環境報告書関連情報(CSR コミュニケート、ISO26000)
- ・各企業のホームページへのリンク

図表9 「環境報告書プラザ」の利用頻度の高い項目(複数回答)



(3)「環境報告書プラザ」ウェブサイトの改善に関して

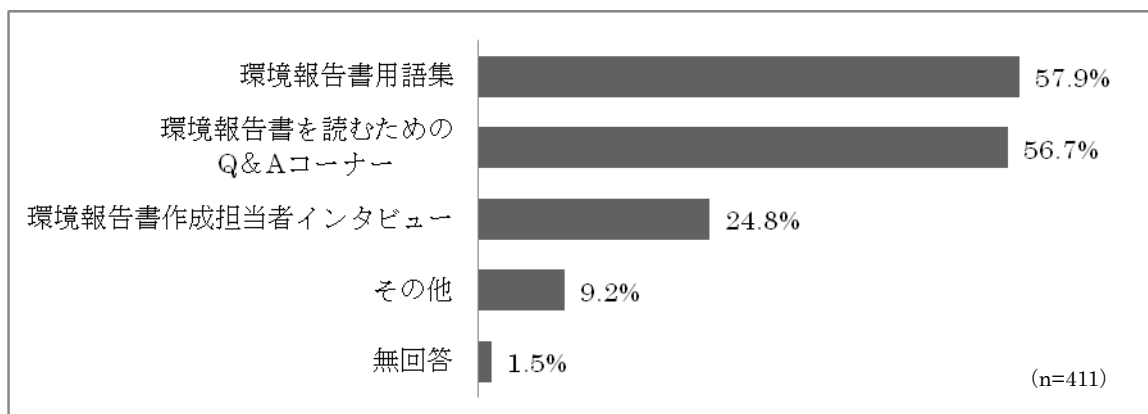
⑧一般層(消費者、会社員、学生等)向けの新規コーナーに関して〔問8〕

一般層(消費者、会社員、学生等)向けの新規コーナーとして、どのようなものがあるとよいかを尋ねたところ、「環境報告書用語集」が57.9%と最も多く、「環境報告書を読むためのQ & Aコーナー」が56.7%、「環境報告書作成担当者インタビュー」が24.8%と続いた。(図表10)

なお、「その他(自由記入)」(9.2%)の内容は、主に次のとおりである。

- ・閲覧者の感想をまとめたページ
- ・最新のトピックスなど、最近の注目情報
- ・環境報告書とはどんなものなのかをわかりやすく解説した読み物(読むことでどのような情報が得られるかなど)
- ・事例や企業をピックアップして紹介するような企画コンテンツ
- ・環境報告書から読み取れる産業界の変化・動向がわかるコンテンツ

図表 10 一般層（消費者、会社員、学生等）向けの新規コーナーに関して（複数回答）



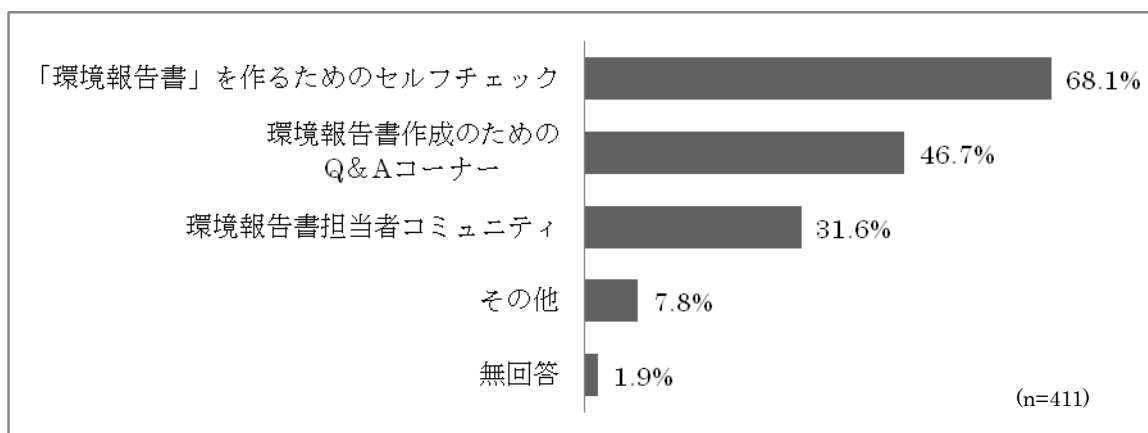
⑨専門層（環境担当の会社員、環境 NPO、研究者、環境調査機関等）向けの新規コーナーに関して〔問 9〕

専門層（環境担当の会社員、環境 NPO、研究者、環境調査機関等）向けの新規コーナーとして、どのようなものがあるとよいかを尋ねたところ、「『環境報告書』を作るためのセルフチェック」が 68.1%と最も多く、「環境報告書作成のための Q & A コーナー」が 46.7%、「環境報告書担当者コミュニティ」が 31.6%と続いた。（図表 1 1）

なお、「その他（自由記入）」（7.8%）の内容は、主に次のとおりである。

- ・ 閲覧者の感想をまとめたページ
- ・ 環境報告書作成担当者インタビュー
- ・ 環境報告書の表彰制度に受賞した報告書一覧（講評付き）
- ・ 有識者のインタビューや読み物
- ・ 検索機能の充実化
- ・ 会社を比較できる機能（例えば、業界や売り上げ等で検索し、CO2 量を比較するなど）
- ・ トレンド解説、トレンド解析

図表 1 1 専門層（環境担当の会社員、環境 NPO、研究者、環境調査機関等）向けの新規コーナーに関して（複数回答）



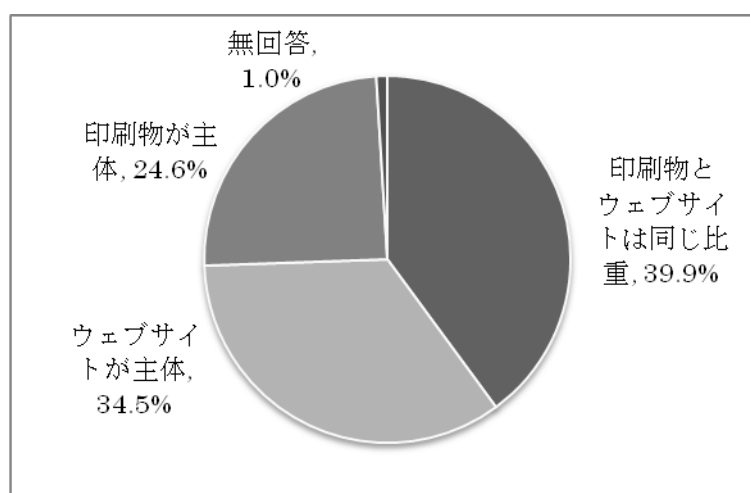
（4）環境／CSR コミュニケーションに関して

⑩環境報告書／CSR 報告書のメディア（媒体）に関して〔問 1 0〕

環境報告書／CSR 報告書のメディアとして主体としているものを尋ねたところ、「印刷物とウェブサイトは同じ比重」が 39.9%と最も多く、「ウェブサイトが主体」が 34.5%、「印刷物が主体」が 24.6%と続いた。（図表 1 2）

ウェブサイトの活用を重視していることがうかがえる。

図表 1 2 環境報告書／CSR 報告書のメディア（媒体）に関して (n=411)



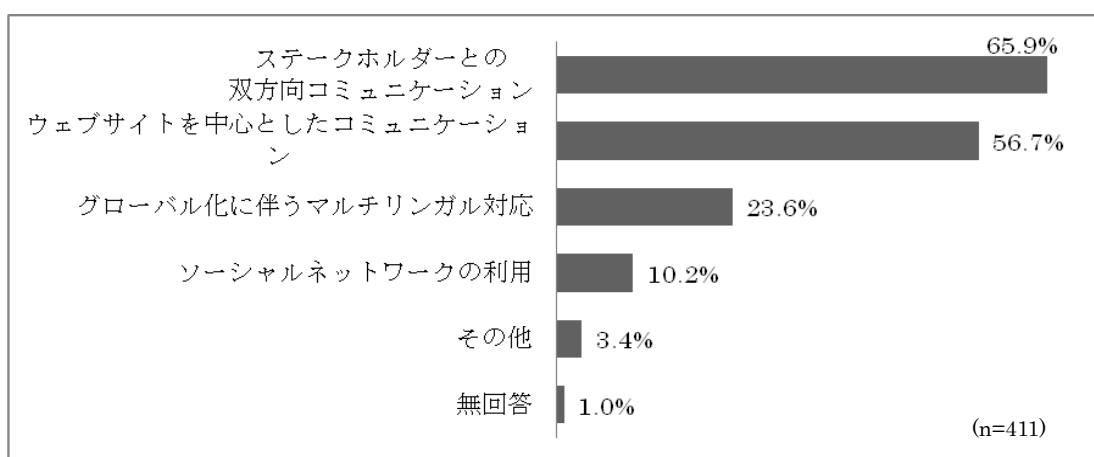
⑪環境／CSR コミュニケーションにおいて重視する事項〔問11〕

環境／CSR コミュニケーションにおいて重要と考える項目を尋ねたところ、「ステークホルダーとの双方向コミュニケーション」が65.9%と最も多く、「ウェブサイトを中心としたコミュニケーション」が56.7%、「グローバル化に伴うマルチリンガル対応」が23.6%と続いた。（図表13）

なお、「その他（自由記入）」（3.4%）の内容は、主に次のとおりである。

- ・ グローバル基準にのっとった情報開示
- ・ 情報開示の強化
- ・ 印刷物とウェブサイトのバランスの取れた情報発信（あるいは使い分け）

図表13 環境／CSR コミュニケーションにおいて重視する事項（複数回答）



⑫報告書作成時に参考になっているガイドライン〔問12〕

「環境省ガイドライン²」が66.9%と最も多く、「GRIガイドライン³」が35.0%、「ISO26000」が23.8%と続いた。（図表14）

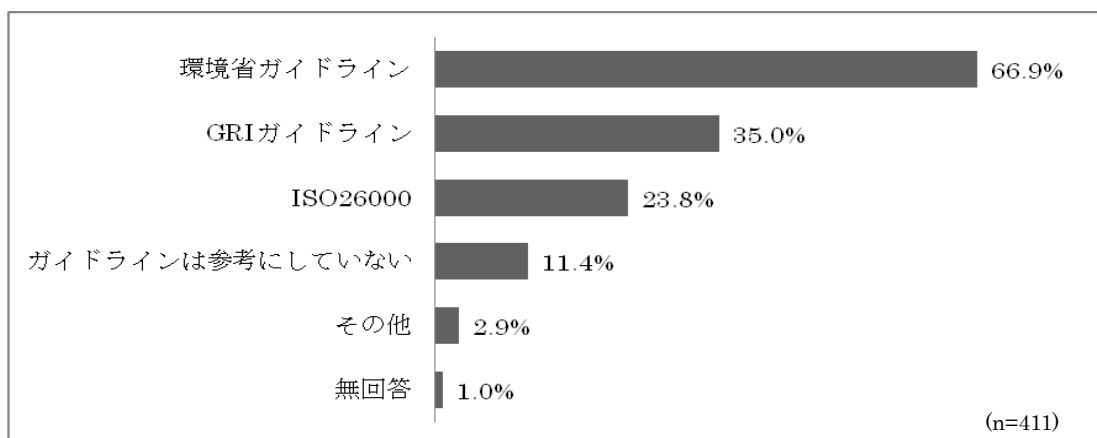
なお、「その他（自由記入）」（2.9%）の内容は、主に次のとおりである。

- ・ グローバル・コンパクトの10原則
- ・ グローバル・コンパクト COP 作成ガイドライン
- ・ GC アドバンスプログラム
- ・ 弊社企業グループが作成するガイドライン、弊社独自のガイドライン
- ・ 日本レスポンシブル・ケア協議会のRCコード
- ・ CopAdvance Level Criteria

² 環境省 環境報告ガイドライン

³ Global Reporting Initiative Guideline

図表 1 4 報告書作成時に参考にしているガイドライン（複数回答）



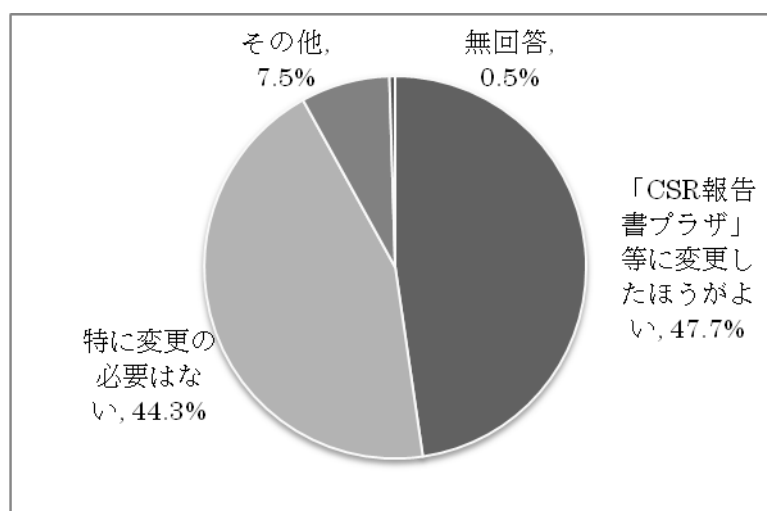
⑬ 「環境報告書プラザ」のウェブサイトのタイトルに関して〔問13〕

近年、環境報告書プラザからCSR報告書・サステナブル報告書の発行に移行する企業がある中、「環境報告書プラザ」のウェブサイトのタイトルについて尋ねたところ、『『CSR報告書プラザ』等に変更したほうがよい』が47.7%、「特に変更の必要はない」が44.3%となった。（図表15）

なお、「その他（自由記入）」（7.5%）の内容は、主に次のとおりである。

- ・「CSR／環境報告書プラザ」がよい
- ・「社会・環境報告書プラザ」がよい
- ・サイト内容に相応しいタイトルであればよい
- ・企業動向に応じて変えればよい
- ・「環境情報プラザ」などにして、環境に関する情報を取り出して掲載するとよい

図表 1 5 「環境報告書プラザ」のウェブサイトのタイトルに関して（n=411）



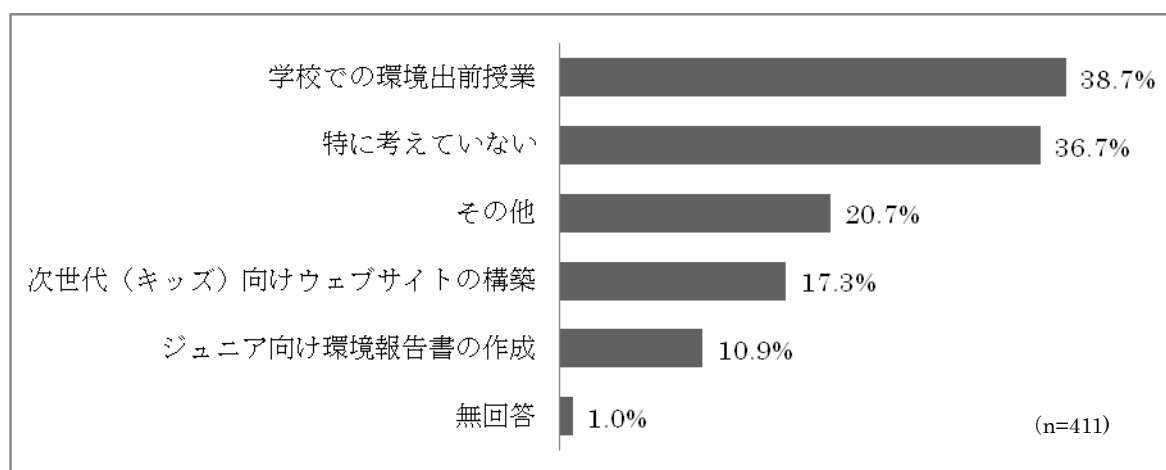
⑭次世代に対する環境／CSR コミュニケーションに関して〔問14〕

次世代に対する環境／CSR コミュニケーションとしてどのようなことを考えているかを尋ねたところ、「学校での環境出前授業」が38.7%と最も多く、「特に考えていない」が36.7%、「その他」が20.7%と続いた。(図表16)

「その他（自由記入）」(20.7%)の内容は、主に次のとおりである。

- ・工場見学、ショールーム見学、店舗見学の実施
- ・パンフレット、出版物（絵本）、DVD教材等の子供向け学習ツールの制作・発行
- ・環境イベント、ワークショップ、環境教室の実施
- ・環境関連の展示会でキッズコーナーを設置
- ・自然体験教室の実施
- ・会社見学やキャリア教育への協力
- ・環境関連の表彰やコンクールの実施、もしくは協賛

図表16 次世代に対する環境／CSR コミュニケーションに関して（複数回答）



(5) 第三者評価に関して

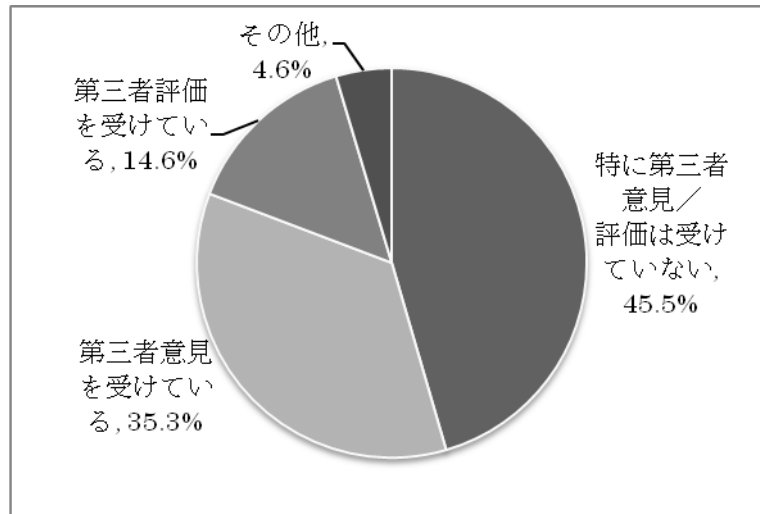
⑮第三者評価等を受けているかどうか〔問15〕

環境報告書の作成にあたって、第三者評価等を受けているかどうかを尋ねたところ、「特に第三者意見／評価は受けていない」が45.5%と最も多く、「第三者意見を受けている」が35.3%、「第三者評価を受けている」が14.6%と続いた。(図表17)

なお、「その他（自由記入）」(4.6%)の内容は、主に次のとおりである。

- ・第三者評価と第三者意見の両方を受けている
- ・以前は第三者所感を受けていたが、現在は受けていない
- ・以前は環境専門家に第三者意見を受けていたが、幅広い意見を聞き反映させたいという思いから、ステークホルダーダイアログで代替している
- ・以前は第三者意見を受けていたが、現在は受けていない。しかし再開の予定

図表 17 第三者評価等を受けているかどうか (n=411)



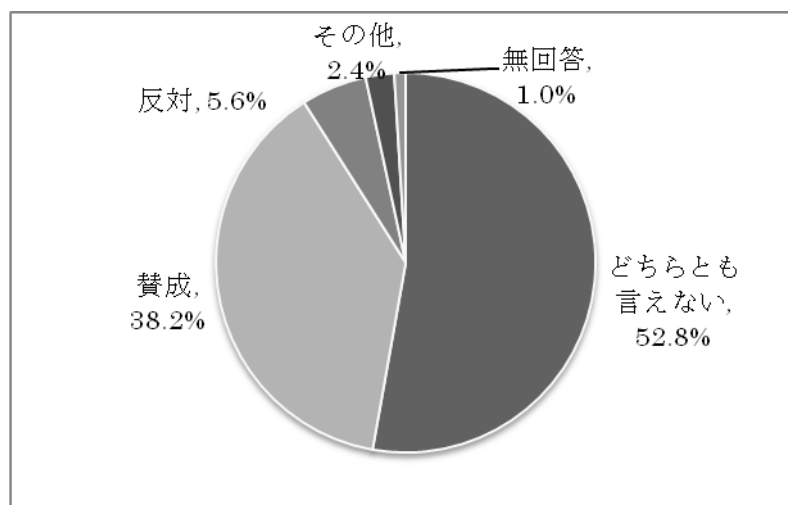
⑩第三者意見/評価をウェブサイトで公表することについて〔問 16〕

「環境報告書プラザ」の検索項目で第三者意見/評価を受けているかどうかをウェブサイトに公表することについてどのように思うかを尋ねたところ、「どちらとも言えない」が 52.8%と最も多く、「賛成」が 38.2%、「反対」が 5.6%と続いた。(図表 18)

なお、「その他(自由記入)」(2.4%)の内容は、主に次のとおりである。

- ・ 第三者の意見や評価を受ける/受けないの判断は各企業の考え方があると思うので、レポートの質の優越をつけるような結果になるのならば、公表は必要ない
- ・ 検索項目に追加されるなら、利便性が上がると思う

図表 18 第三者意見/評価をウェブサイトで公表することについて (n=411)



(6) 節電についての取り組みに関して

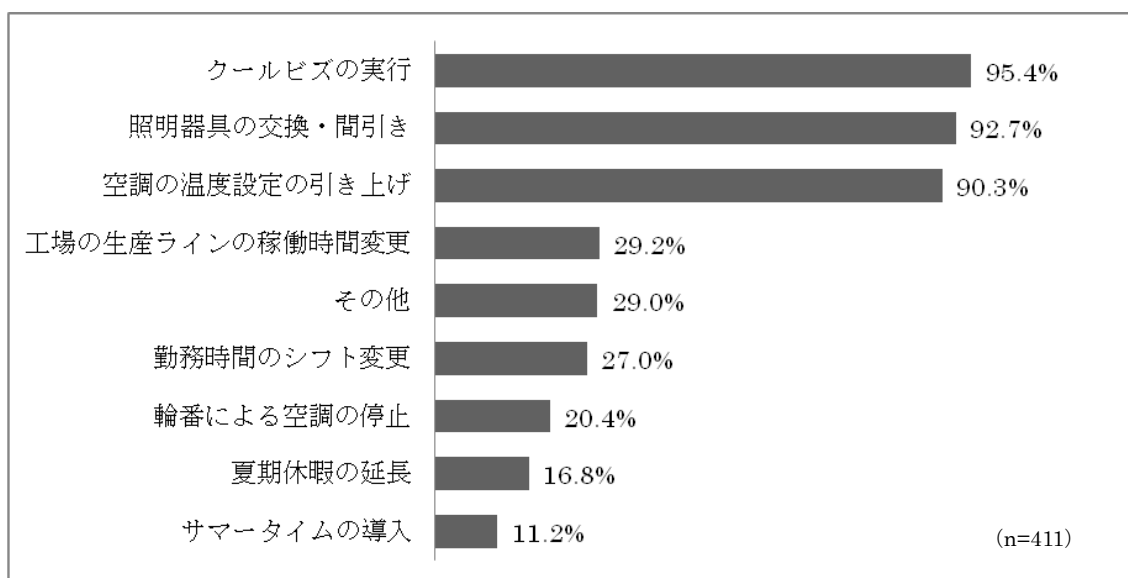
⑰夏期の節電対策に関して〔問17〕

今年（平成23年）の夏期の節電対策について尋ねたところ、「クールビズの実行」が95.4%と最も多く、「照明器具の交換・間引き」が92.7%、「空調の温度設定の引き上げ」が90.3%と続いた。（図表19）

なお、「その他（自由記入）」（29.0%）の内容は、主に次のとおりである。

- ・ 休日を平日に変更、輪番休日の実施
- ・ ノー残業デーの実施
- ・ 自家発電の導入や活用
- ・ OA機器の省エネ設定
- ・ エレベーター、エスカレーターの間引き運転
- ・ 電気製品や照明器具の省エネ製品への買い替え
- ・ 自動販売機の一部停止
- ・ 電気ポットの使用停止
- ・ ウォシュレットの温水停止
- ・ トイレの手を乾かす乾燥機の停止
- ・ 昼休みの消灯
- ・ 本社機能の一部移転
- ・ 社員への啓発のために「節電パンフレット」を配布

図表19 夏期の節電対策に関して（複数回答）



参考 1. 2009 年度アンケート調査結果との比較

2009 年度、環境報告書プラザに関するアンケート調査を環境報告書プラザの掲載企業 850 社を対象に実施し、494 社から回答を得た（回収率約 58%）。2011 年度の調査では、「環境報告書プラザの利用状況」に関して、2009 年度調査と同様の項目を設けたことから、次にその調査結果を比較している。

なお、2009 年度のアンケート調査結果については、環境報告書プラザのウェブサイトに掲載している。

■環境報告書プラザの利用状況について

①自社報告書の掲載の認知状況

2011 年度調査 (n=411)	2009 年度調査 (n=494)
以前から知っていた：69.8% 今回の連絡で知った：30.2%	以前から知っていた：62.1% 今回の連絡で知った：37.4%

②環境報告書プラザの利用頻度

2011 年度調査 (n=411)	2009 年度調査 (n=494)
1 年に数回：46.5% 今回が初めて：27.3% ほとんど見ない：21.4%	1 年に数回：33.8% 今回が初めて：35.6% ほとんど見ない：25.1%

③環境報告書プラザの利用目的

2011 年度調査 (n=411)	2009 年度調査 (n=494)
環境に対する他企業や業界の取組状況を知るため：71.8% 環境報告書作成の参考にするため：64.5%	環境に対する他企業や業界の取組状況を知るため：75.7% 環境報告書作成の参考にするため：61.5%

参考2. 環境報告書プラザに関するアンケート調査票

■貴社の「環境報告書(CSR報告書、サステナビリティレポート等を含む)」に関して

問1: 貴社の報告書は、特に誰を対象に作成していますか。
当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①株主
	②一般の消費者・顧客
	③従業員
	④投資家
	⑤学生・就職活動者
	⑥環境担当の他社の会社員
	⑦環境分野の専門家(研究者、調査機関等)
	⑧その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

問2: 報告書を作るにあたり、どのような点に苦勞していますか。
当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①社内の様々な部署からの情報収集
	②どのような内容を入れたらよいか、内容の検討
	③編集やデザイン等の制作作業
	④報告書の制作期間の確保
	⑤その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

問3: 報告書を作るにあたり、どのようなツールが有効だと思いますか。
当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①「環境報告書プラザ」のように、他社の事例がまとまって見られるサイト
	②作成方法を指導するセミナー、講演等の開催
	③個別コンサルティング指導
	④作成方法を指導するマニュアルや書籍
	⑤その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

■「環境報告書プラザ」の利用状況に関して

問4: 貴社の報告書が、「環境報告書プラザ」に掲載されていることをご存じでしたか。当てはまるものに○を付けてください。

回答	選択肢
	①以前から知っていた
	②今回の連絡で知った

問5: 「環境報告書プラザ」を利用していますか。利用している場合、どの程度の頻度で利用していますか。当てはまるものに○を付けてください。

回答	選択肢
	①1週間に数回
	②1カ月に数回
	③1年間に数回
	④ほとんど見ない
	⑤今回が初めて

問6: あなたは、どのような目的でこのサイトを利用していますか。今回初めてアクセスされた方は、今後どのように利用できるとお考えですか。当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①環境報告書を作成する参考にするため
	②環境に対する他企業や業界の取組状況を知るため
	③調査研究のため
	④その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

問7: 「環境報告書プラザ」の中で、利用頻度の高い項目は何ですか。当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①企業による検索
	②キーワード検索
	③地球温暖化ガスに基づく検索
	④環境効果指標で検索
	⑤英語版検索
	⑥利用していない
	⑦その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

■「環境報告書プラザ」ウェブサイトの改善に関して

問8: 「環境報告書プラザ」では、より多くの方に頻繁に利用していただきたいと考えています。一般層向け(消費者、会社員、学生等)に今後、どのようなコーナーがあるとよいと思われますか。当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①環境報告書作成担当者インタビュー (環境報告書作成担当者にインタビューを行い、環境活動を行うにあたっての推進役、組織内の体制、報告書作成にあたってのポイント、苦労話等、読んで参考になりそうなレポートを掲載するコーナーを作成)
	②環境報告書用語集
	③環境報告書を読むためのQ & Aコーナー
	④その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

問9: 専門層向け(環境担当の会社員、環境NPO、研究者、環境調査機関等)に今後、どのようなコーナーがあるとよいと思われますか。当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①環境報告書作成のためのQ & Aコーナー (おもに、これから環境報告書の作成を考えている企業の方にも役立つ情報の提供コーナーを作成)
	②「環境報告書」を作るためのセルフチェック (「環境報告書」の質の向上のために、「環境報告書」をまとめるにあたってのセルフチェックと、解説のようなコーナーを作成)
	③環境報告書担当者コミュニティ (環境報告書作成者がお互いに意見を交換できる場を提供するコーナーを作成)
	④その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

■ 環境/CSRコミュニケーションに関して

問10: 貴社の環境報告書/CSR報告書のメディアは、次のうちのどれが主体でしょうか。当てはまるものに○を付けてください。

回答	選択肢
	①印刷物が主体
	②ウェブサイトが主体
	③印刷物とウェブサイトは同じ比重

問11: 今後の環境/CSRコミュニケーションにおいて貴社が重要だと考える項目は何でしょうか。当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①ウェブサイトを中心としたコミュニケーション
	②ステークホルダーとの双方向コミュニケーション
	③グローバル化に伴うマルチリンガル対応
	④ソーシャルネットワークの利用
	⑤その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

問12: 昨年SR(組織の社会的責任)に関するISOの規格ISO26000が発行されました。これに伴いISO26000に取り組む企業が現れてくることが考えられます。貴社が、報告書を作成するにあたって参考に行っているガイドラインは何でしょうか。当てはまるものに○を付けてください。

回答	選択肢
	①GRIガイドライン
	②環境省ガイドライン
	③ISO26000
	④ガイドラインは参考にしていない
	⑤その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

問13: 近年、環境報告書からCSR報告書、もしくはサステナブル報告書というタイトルに移行する企業が増えています。これに伴い、現在の「環境報告書プラザ」のウェブサイトの名前について、どのように思われますか? 当てはまるものに○を付けてください。

回答	選択肢
	①「CSR報告書プラザ」等に変更したほうがよい
	②特に変更の必要はない
	③その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

問14: 持続的な社会を構築していくためには、次世代に対してのメッセージ発信も環境/CSRコミュニケーションの重要な要素だと考えます。貴社では次世代に対する環境/CSRコミュニケーションとしてどのような事を考えていますか? 当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①ジュニア向け環境報告書の作成
	②次世代(キッズ)向けウェブサイトの構築
	③学校での環境出前授業
	④特に考えていない
	⑤その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

■第三者評価に関して

問15: 報告書を作成するにあたって、貴社は第三者評価等を受けていますか？
当てはまるものに○を付けてください。

回答	選択肢
	①第三者評価を受けている
	②第三者意見を受けている
	③特に第三者意見／評価は受けていない
	④その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

問16: 環境報告書プラザの検索項目等で第三者の意見／評価を受けているかどうか、
ウェブサイトに公表することについて、どのように思われますか。
当てはまるものに○を付けてください。

回答	選択肢
	①賛成
	②反対
	③どちらとも言えない
	④その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

■貴社の節電についての取り組みに関して

問17: 夏期の節電のために、貴社が行っている(行う予定である)対策は、どのようなもの
でしょうか。当てはまるものに○を付けてください。(複数回答可)

回答	選択肢
	①サマータイムの導入
	②夏期休暇の延長
	③勤務時間のシフト変更
	④工場の生産ラインの稼働時間変更
	⑤照明器具の交換・間引き
	⑥空調の温度設定の引き上げ
	⑦輪番による空調の停止
	⑧クールビズの実行
	⑨その他(自由記入):ご自由にご記入ください。

～ご協力、誠にありがとうございました～